

総合教育センターだより

平成14年12月16日発行 第85号

子供たちのことで困っていませんか？



総合教育センターは

開かれたセンター
 学校に貢献できるセンター

でありたいと考えています。

各学校固有の生徒指導上の課題解決のために

「学校に応じた講座が
 できないか…？」

新企画！！

生徒指導学校支援講座

始まる！！

あなたの学校の校内研修会の講師として、当センターの指導主事がうかがいます。これまでの申し込み学校数は27校。希望する内容の多くは、学級づくり（グループエンカウンター）、教育相談の技能、不登校への対応となっています。（なお、この「支援講座」につきましては9月18日付でお知らせしています。）

新しい学校づくりへの支援

副所長 中村和樹

当センターでは、教職員としての資質向上や力量アップを目指す様々な研修講座のほかに、特色ある事業として、児童生徒と教職員、指導主事が一体となって楽しい学習を追求する「スタディイン総合教育センター」、講座の一環として学校固有の問題や喫緊の課題に対応する「生徒指導学校支援講座」、学校や教職員の研究成果の交流を促す「教育研究発表会」などを実施しています。

今年度、スタディインは13校に取り組んでいただきました。支援講座は17校の実施を計画しています。研究発表の申し込み数も現在、100点を超える状況にあります。これらの事業の成果が、多くの教職員の研修意欲や指導方法の改善に大きな影響を与え、新しい時代にふさわしい学校づくりが円滑に進められることを期待しています。

今後とも、10年経過教員研修や初任者研修などの見直し、カリキュラムサポート体制の整備、大学等との連携強化を図り、より実践的な研修講座の開設に努めますので、積極的な活用をお願いします。

当センターへのお問い合わせ・ご意見・ご要望はEメールもご利用できます。

■研修全般は…tch25909@akita-c.ed.jp

■情報教育は…kna@akita-c.ed.jp

■学習指導は…tch25295@akita-c.ed.jp

教育課題の解決に向けた

～ 研修講座をどう行ったか。

特色ある学校づくりと学校評価

当研修部では講座を運営するに当たり、各学校の様々な取り組みを分かちあうための協議や発表など、講義に偏らない研修を心がけています。また、学校では受講された先生が中心となり、校内研修を実施して学びを共有し、さらに深化が図られることを願ってきました。

さて、今年度の基本研修講座においては、特色ある学校づくりのために創意工夫を凝らした教育活動の展開と、学校評価が適切に機能する学校経営について話をしてきました。

特に、各校種教務主任研修講座では「学校の活性化と学校評価」の中で、教育活動を日常的に評価し、課題解決に向けて学校全体で取り組んでいく姿を描きながら講座を行いました。ともすれば、他校にないような目新しい教育活動を設定したから、それで特色ある学校だと思いがちですが、常に改善を求め、振り返りながら、子供たちのために学校を創り続けていかなければなりません。私たちもまた、学校の課題解決に役立つ講座内容を創り続けていきたいと思えます。

(教職研修部 工藤正孝)

◆講座名「これからの学校と経営展望」

間もなく夏休みが終わろうかという8月20日唯一の管理職向け専門研修講座である学校改善総合講座を、標記講座名で実施しました。

今年度は、学校における喫緊の課題である「学校評価」をテーマとして設定し、国立教育政策研究所の小松郁夫先生をお招きしてご講義いただきました。学校における組織マネジメントの重要性和評価機能の構造化についてのお話を中心でしたが、講義終了後も質疑応答が続くなど、本当に意義深いものとなりました。

また、鶴岡孝総合センター所長の講話では、学校経営に関する具体的なアドバイスがなされ、春日詩子社会教育主事による男女共同参画社会に関する講義では、その歴史的背景と秋田県の現状についてお話がありました。いずれも管理職として明日からの学校経営の意欲を喚起するものになったと思えます。来年度は、「危機管理」をテーマに設定する予定です。

(教職研修部 工藤 裕)

算数科の授業改善のために

◆講座名

「小学校初任者研修講座」



年次別研修における教科指導では、実践的指導力の向上を目指し、模擬授業研修の回数を増やしました。小学校初任研では、特に算数と理科に重点をおいて模擬授業を実施していますが、ここでは算数の模擬授業研修について紹介します。

模擬授業研修は1班5～7名の編成で、参加者全員が授業をし、子供役は教師役以外の方が務めます。教師役・子供役とも自分の担当学級を想定して授業に臨みます。25分の模擬授業を行った後は、教材研究、指導計画、指導技術などについて率直な意見交換を行い、課題となるところや改善の視点を明確にするようにしました。

算数科では、学習指導要領のねらいを実現するために、実生活との関連を図ること、問題解決の能力を育成すること、算数的活動を豊かにすることが重視されています。今年度は38名が模擬授業を行いました。その大多数が上記の趣旨を生かそうとしており、協議も焦点化され有意義なものでありました。研修の回数を重ねるごとに、前回の問題点を工夫改善しようとする努力の跡を見ることが出来ます。反省記録には「自分の授業の課題が明確になりました。模擬授業は、とてもきつい研修ですが有意義です。5年研で再び模擬授業研修があるそうですが、毎年このような研修があって教師としての力量を高めていければいいですね。」という言葉があり、その先生の伸びる姿を確信することができました。

経験年数が少なくても、教材研究を綿密に行い、事前の準備をしっかりとした上で授業に臨めば、質の高い授業をすることが可能です。おそらく指導計画の作成に当たっては、勤務校の先輩の助言を仰いだり、同僚と何度も議論を重ねたことでしょう。模擬授業は参加する先生にとってはとてもハードな研修です。しかし、勤務校での研修とセンターの講座を有機的に結びつけ、さらにその成果を日常の実践に反映させることができるということで大きな効果があったと考えています。

(教科研修部 田仲誠祐)

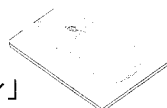
取り組みピックアップ

講座担当指導主事が語る。 ～

パソコンの授業での活用を目指して

◆講座名

「パソコンでプレゼンテーション」



今年度は当研修部で実施する全ての講座で、情報活用能力の育成の重要性を理解してもらうために、学校における教育の情報化に関する講義等を行ってきました。

また、コンピュータリテラシーの向上やアプリケーションソフトの使い方以上に、授業や校務等での活用を重視し、「より実践的に・学校のニーズに合わせて」をモットーに講座運営をしてきました。

「パソコンでプレゼンテーション」はプレゼンテーションにおけるパソコンの効果的な活用の仕方について研修するもので、その必要性から多くの受講申し込みがありました。できるだけ希望に沿うように班編成を工夫して実施しました。

プレゼンテーションの考え方を講義で、また、ソフトの基本的な操作は例題の演習を通して研修してもらいました。その後、受講者のニーズにより、授業や学校行事などの具体的場面を想定して教材の作成を行いました。指導スタッフを増やし、個々の疑問や要望にできる限りこたえるようにしました。最後には受講者全員が、作成した教材をプレゼンテーションすることにより、様々な場面での活用の仕方や工夫、多彩な発想や表現方法、アイデアを得ることができたと思います。また互いにプレゼンテーションの仕方を評価、協議することにより、話し方や視線など、普段の自分の授業の様子を振り返ることもでき得るものが大きかったようです。

しかし、この講座はソフトの活用の仕方とプレゼンテーションの仕方の二つの要素を含んでいたため、実習時間が十分取れませんでした。また、ねらいと講座内容に微妙なずれがあったのではないかという反省もあります。これらの改善のために、来年度は講座を「プレゼンテーションソフトで教材作成」と「情報発信とプレゼンテーション」の二つに分け、ねらいをより明確にして受講者がじっくり取り組めるように編成したいと考えています。

(情報教育研修部 米澤幸男)

ADHD・LD児等の理解のために

◆講座名「通常の学級に在籍するADHD・LD児等への指導」他13講座

文部科学省の調査研究協力者会議の中間報告（平成14年10月）で、「小・中学校通常学級在籍者の6%程度が、LD・ADHD・高機能自閉症児等の児童生徒と考えられる。」との調査結果が公表されました。

本県の調査ではLDの疑いのある児童生徒は約1%、800人程度という報告がされています。（平成14年2月）当センターの相談ケースでも増加傾向にあります。

このような状況を踏まえ、今年度は基本研修講座、専門研修講座、生徒指導関係の講座の中に「ADHD・LD児等の理解」の内容（40分～2日間）を設定し、計13講座で実施しました。受講者は600人を超え、どの講座においても関心が高く、感想アンケートからも緊急かつ重要な課題であることが伝わってきます。

LD・ADHD・高機能自閉症児等の多くが、通常の学級に在籍していることから、これらの児童生徒も共に育つ学級づくりの大切さがクローズアップされてきています。

今後、個に対応した教育的支援の在り方や、通常の学級における配慮事項等について、より実践的に研修していただけるように講座内容を改善していきたいと考えています。

(特殊教育・相談研修部 志渡 裕)





指導の改善に生きる スタディイン 総合教育センター



「技能・技術の伝承」

情報教育研修部 部長 木 林 勝

今年5月17日のニュースで、大手電気メーカーがノートパソコンを中国の工場生産することが報じられました。人件費のことに加えて、中国の部品製造の技術・技能が向上したこともあっての進出でした。製造業の相継ぐ海外進出を聞くにつけ、「国内の技術・技能の伝承への影響はどうなるのだろうか」と気になります。

かつては、技能オリンピックにおいて日本が多く分野にわたり入賞者数が上位にありました。その後減少に転じ、1997年まで長期減少傾向が続いていました。1985年の大阪大会のメダル獲得数は23個でしたが、1997年には6個にまで減少しています。この変化を見ると、人々の技能への関心がどのようであるかが窺えます。

1997年の技能オリンピックの状況が、テレビ番組で「1000分の1ミリに挑む」のタイトルで紹介されました。精密機器組立部門に参加した日本選手は、室温や湿度の材料への影響まで計算し、仕上げにヤスリを使用しました。1000分の1ミリを手作業で削り出したのです。

設計者の意図した本来の性能が発揮できる裏には、このような技が隠されているのでしょう。工業技術の最先端を行く宇宙機器などの製造には、ロボット技術の精度に加える何かが必要で、目に見えない匠の技が不可欠ということです。

自動化の手本は、熟練技能者の経験と知恵によって研ぎ澄まされた作業そのものです。最先端の研究開発段階における試作も、卓越した高度な技能者の能力に依存していると言われます。自動化と熟練技能者の高齢化が進む中、将来の技術・技能とその伝承を考えると、ハイテク時代の技能者の存在をもう一度見つめ直す必要があります。

このような事態に対処するための法律（ものづくり基盤技術振興基本法）が平成11年3月に制定され、新しい時代の人材育成の方策が示されました。これに基づき開催された「ものづくり基盤技術基本計画懇談会」は、産業を支えているのは「人」であるとし、学習の振興計画として、

- (1) 学校教育におけるものづくり教育の充実
- (2) ものづくりにかかわる生涯学習の振興の二つを提案しています。

教育現場では地域の熟練技能技術者の協力を得て、次世代の担い手に、ものづくりの楽しさ、素晴らしさを知らせることが大事だと思います。

■数字で見る今年度の概要 (単位：校)

		小学校	中学校
研究授業教科	実施校数	8	5
	国語	7	2
	社会	0	4
	算数・数学	6	2
	理科	1	1
	英語		2
	家庭・技術・家庭 体育・保健体育	0	1
選択	プラネタリウム	7	5
	コンピュータ	3	2
学習	電子顕微鏡	3	4
	社会	1	0
	音楽	1	0
	美術	0	2
	体育	2	1
特殊教育		0	1

■利用校の感想 成果○ 課題●

- センターの優れた施設・設備を活用した学習によって、児童の興味・関心が高まった。また、指導主事の授業を受けて、児童は考える楽しさを知り、次の学習に意欲的になった。
- 授業研究会は、校内研究会よりもかなり「濃い」協議の場となり、指導の改善に効果があった。
- 指導主事の授業を参観させてもらうことは滅多にない機会である。子供たちの意見の引き出し方、整理の仕方、板書、教具など大変参考になった。
- 往復時間を考えると、本校の場合は日帰りではなく、一泊の日程を組むべきであった。
- 事前研究がもっとできていれば、もっと得るものがあったと思われ、せつかくの機会を十分に生かせなかったことが悔やまれる。

(田沢湖町立神代小学校の感想からの抜粋)

■指導主事の感想

- ・ センターの指導主事と共に行う授業研究会は、小・中・高の教科の系統を踏まえた研修ができ、有意義だった。特に今回は中・高6年間を見通した「入門期の古典の指導の在り方」についての研修を深めることができた。
- ・ 当日出会った生徒と授業をするという経験は貴重な機会であった。授業者と教材観や指導方法について事前に打ち合わせをする機会を持ち、次の授業にスムーズにつながるような学習場面を、と考えることが大切だと思った。

(※鳥海中学校のスタディインで国語の授業及び指導助言をした、中央教育事務所由利出張所 三浦律子指導主事の感想からの抜粋)

伊 東 金 一

今年4月からセンター勤務となった伊東指導主事は、毎日由利町から通っています。教職研修部で高等学校5年研、10年研などを担当しています。講座を滞りなく行うための準備にはかなりの時間を費やし、可能な限り様々な角度や視点から学問上の理論を把握するように努めているそうです。その上で自分の経験を織り込んだ生きた講義になるように心がけています。

前任校の金足農業高校では、教務主任。また、農業クラブ全国大会（H15）秋田大会の事務局総務として多忙な毎日を送っていたそうです。

高 橋 譲

情報教育研修部の高橋指導主事は「インターネットで電子メール」や「パソコン入門」等の講座を担当しています。一方で「特殊教育学校初任研」や「特殊学級新担任」も担当。

昨年まで聾学校をはじめ特殊教育学校に長く勤務した特殊教育の専門家です。その高橋指導主事が情報教育と出会ったのは7年前。国立特殊教育総合研究所に短期研修で派遣され教育工学を学びました。その時から障害児にこそ情報教育が必要であるという信念で自己研鑽をしてきたそうです。本荘市在住。趣味は熱帯魚の飼育。休日は水槽の手入れ。

紹介
します

指導主事の横顔

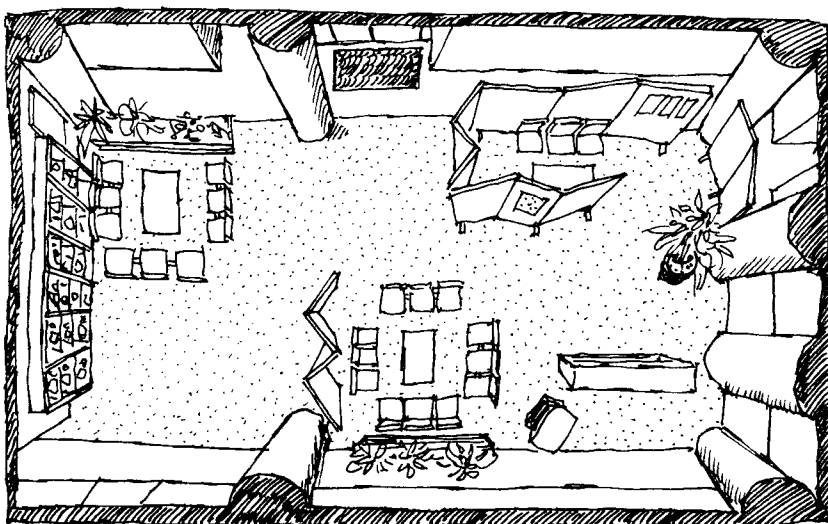
山 本 和 美

教科研修部で生活科、理科、総合的な学習の時間等を担当している山本指導主事の講座は、アクティブです。野外観察やネイチャーゲーム、星の観察、理科のものづくり、生活科で行う栽培や飼育・数え上げればきりがありません。また、多くの見学者をプラネタリウムで星の世界にいざないます。これらの施設・設備をフルに使って、センターだからこそできる内容をと考えているそうです。教科研修部室内の植物を全て育てているほかに、趣味は庭の草取りということですから、植物とは切っても切れない関係のようです。

荒 川 肇

明るく豊かな生徒指導を目指している荒川指導主事は、昨年度まで横手城南高校で日本史を教えていました。センターでは特殊教育・相談研修部に所属し、生徒指導関係の講座のほかに、主として高校生にかかわる相談を担当しています。生徒指導学校支援講座で小・中学校を訪問し感動したのは学級経営のきめ細やかさだそうです。また、センター発行の「生徒指導だより」やHPをご覧になり、役立てて欲しいと願っています。大曲市の花火大会の打ち上げをする付近に在住。花火を裏から見るのもおつなものだそうです。

Welcome to 多目的ホール



特殊教育・相談研修部前にあるホールです。ここは主に二つの役割を果たしています。

一つは、来所相談の方々の、相談前の緊張感をやわらげる場であること。

もう一つは県内全ての特殊教育学校を、掲示物や作品により紹介する場であることです。

センターにお越しの際は、ぜひ立ち寄り、力作をご覧ください。

教育研究発表会においでください

期 日 平成15年2月13日(木), 14日(金)

会 場 秋田県総合教育センター

日 程

13日 (木)	10:00	11:00	12:20	13:30	16:00
	受付	・教育研究奨励賞授賞式 ・教育研究発表会開会式 ・研究説明	・各部研究発表 ・チャレンジ研 修・フォーラム	昼食	研究発表(分野別) 及び分科会
14日 (金)	9:30	12:00	13:10	15:00	
	受付	研究発表(分野別)及び分科会	昼食	記念講演	

記念講演

演 題 「農と食と医と」

筑波大学生物資源学類教授 佐藤 常雄 氏

各研修部の研究発表概要

<p>〈教職研修部〉</p> <p>教員の資質向上が一層求められている今、校内研修の見直しが課題となっています。</p> <p>そこで、アンケート調査をもとに現状を把握し、課題を明らかにするとともに、その意義や機能を再確認し、これからの校内研修の在り方について発表します。</p>	<p>〈教科研研修部〉</p> <p>各教科の「基礎・基本」や「基礎学力」の内容を明らかにし、基礎学力の向上を図る授業改善の工夫や指導に生かす評価について発表します。研究実践のために学校に委嘱した研究協力員と共に行った指導例も含め、紹介します。</p>
<p>〈情報教育研修部〉</p> <p>児童生徒一人一人に「生きる力」をはぐくむ豊かな教育活動の展開を支援するという視点で、アンケート調査等により望ましい「花まるっ教育ネットワーク」の在り方を探るとともに、それを有効に活用し、教育活動の展開するための具体的な指導方法について発表します。</p>	<p>〈特殊教育・相談研修部〉</p> <p>県内の生徒指導上の現状と課題を調査研究し、生徒指導における危機管理のための方策を提示します。具体的には県内各校の様々な取り組みを参考にしながら、問題行動の未然防止と問題行動への対応の二つの視点から発表します。</p>

お知らせ掲示板

☆☆☆☆ 冬休み中のプラネタリウム教室のご案内 ☆☆☆☆

平成15年1月7日(火), 8日(水)に総合教育センターで標記の催しをします。今回はプラネタリウム教室のほかに、星のコンサート、星座早見盤の作成も行います。希望する方に来所いただけるよう、児童生徒を通じて各家庭などにお知らせください。詳細は各小・中学校に配布するプリントをご覧ください。